



平成 29 年 5 月 8 日  
ペプチドリーム株式会社  
<http://www.peptidream.com/>  
(証券コード：4587 東証一部)

## 当社研究開発プロジェクトに係る不明確な情報について (社長コメント)

先週、一部の証券会社のアナリストレポートにおいて、当社の共同研究開発先である米国ブリistol・マイヤーズ スクイブ社（以下「BMS」といいます。）のホームページ上の開発パイプラインから第 I 相臨床試験の開発品（Compound Name：PD-L1 Inhibitor，Compound Type：Millamolecule，Disease Area：Immunoscience）が削除されたことをもって、当社とBMS社との共同研究開発プロジェクトの開発が中止された、又は「少なくとも、開発優先順位は低下した」とするレポートがなされたことに対して、当社の見解をお知らせいたします。

このたびBMS社がホームページから削除したと話題になっている第 I 相臨床試験の開発品は、当社とBMS社との共同研究開発プロジェクトではありません。プロジェクトの開発を中止・解除する場合は、事前に当社に対して通知する旨の契約がBMS社との間で締結されています。当社が認知しない状況でプロジェクトの開発が中止されることはありません。

このたび出されたレポートは、当社への事前の取材がなされずに作成されたものであり、当社がまったく関知しない状況で公表されています。すなわち、事の真偽について当社に確認することなく、アナリストの推測に基づいて公表されており、その結果、多数の株主様にご迷惑をおかけすることになったことは、誠に遺憾であります。

なお、当社では、現在42本の共同研究開発プロジェクトがあります。当然のことながら、そのすべてが上市にまで至るということはありません。臨床試験まで進んだプロジェクトについて共同研究開発パートナーから開発中止の通知があれば、当社はその旨を開示いたします。

当社といたしましては、本来、このような憶測によるレポート内容に関してコメントをすることは、『事実関係に基づいた情報開示・発表しか行わない』という当社のIRポリシーに適合しないものであると考えておりますが、真偽が不明確かつ当社が関知しない事柄についてネガティブな情報が流布している状況に鑑み、コメントすることといたしました。

医薬品の開発には、多額の費用と長い歳月を必要とします。ペプチドリームは、共同研究開発パートナーと一歩一歩、着実にゴールに向けて進み続けます。

平成29年 5 月 8 日  
ペプチドリーム株式会社  
代表取締役社長 窪田規一